

●第 45 回 SPUMS 2016 学会レポート

2016 年 5 月 15 日から 21 日、フィジーのインターコンチネンタルフィジー ゴルフリゾート&スパにおいて「第 45 回 SPUMS ASM (South Pacific Underwater Medicine Society Annual Scientific Meeting) 2016」が開催されました。

【SPUMS とは】

南太平洋地域を中心に活動し、潜水医学の推進、情報提供を目的とする会員数約 600 名の学会です。医師以外にも HBO2 施設の技師や看護師、ダイビングインストラクター、商業・研究・テクニカルダイバー、海洋生物学者、レクリエーションダイバーなどが所属しています。学会名に高気圧酸素治療との言葉が無い事からも、UHMS に比較してより潜水を重視した学会です。オーストラリアでは NGO 法人として活動し、連邦法や州の規制法、複数の基準委員会に対してアドバイスをしています。DAN アジアパシフィックとも関係の深い学会です。

【学会のテーマ】

今回の学会テーマは” Diver Resuscitation: In and out of the water” (水中/陸上におけるダイバーの蘇生) で、参加者は約 140 名でした。水中での事故対応、心肺蘇生法、病理解剖・死後画像診断による死亡原因究明の現状などの報告や、遠隔地での減圧障害発生時の対処方法 (ファーストエイド、緊急搬送の必要性の判断、水中再圧治療の是非等 ; インターナショナル DAN での取り組みの一環) などについて議論が行われました。DAN アジアパシフィック及び法医学者の強い熱意のもと、オーストラリアでは潜水死亡事故に対して積極的に病理解剖、死後画像診断を行い、死因を明らかにする努力が行われていることが印象的でした。

【日本からの発表】

DAN JAPAN 小島医師が” Recreational diving related fatalities in Japan (2004-2014)” のポスター発表を行いました。過去の DAN USA の報告と同様に日本でも 40 歳以上、男性ダイバーの死亡例が多いこと、死亡に至る引き金(Trigger)として心疾患、エア切れ、器材トラブルが多いこと等が報告されました。また、死亡率は DAN JAPAN 会員 1 万人・1 年あたり 0.69 人であり、DAN USA、BSAC の報告と比較して低いことが報告されました。